DRUG topics
発行所　株式会社 ドラッグマガジン
本　社 〒101-0021 東京都千代田区外神田四丁目9-8神田石川ビル3階　電話03(3525)8160
http://www.drugmagazine.co.jp/
発行日　毎週1回月曜日発行　年間購読料 18,720円（税別・送料共）

プラセンタのリーディングカンパニー
プラセントップ®（第2類医薬品）
スノーデン株式会社

地域医療守る姿勢アピール

パンデミックに直面した薬局薬剤師の実際を伝える動画

京都大学SPH薬局情報グループ

新型コロナに立ち向かう「薬局薬剤師のリアル」動画で公開

国内では類例のない「薬局の臨床研究」を行っている京都大学SPH薬局情報グループは先ごろ、今年の春に開設した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）対策サイトで地域医療を守るために動いた薬局薬剤師の取り組みを動画として公開した。全国の薬剤師および薬学生を対象にこれまでのコロナ禍を総括するとともに、さらなる拡大に備えて共有しておきたい内容になっている。

【本紙編集部＝大津好広】

系専攻（SPH＝School of Public Health）内に設立。カナダ留学から帰国した特定講師の岡田浩氏がリーダーとなり、院生・留学生、調剤薬局3社、調剤機器メーカーの産学協同で薬局薬剤師の社会貢献につながる臨床研究を行っている。

薬局勤務の経歴を持つ岡田氏は、これまでに糖尿病患者と接する薬局薬剤師の声かけが生活習慣改善の行動変容に結びつくことを検証する介入研究を実施。カナダならびにオーストラリアで薬剤師職能の可能性を探る国際共同研究も手がけている。

COVID-19対策サイトは、各国の大学や薬剤師関係者らから知らされる感染拡大状況に危機感を募らせた岡田氏が、緊急事態宣言の発令（4月7日に7府県／同16日より全都道府県）に先駆けて準備を開始。4月6日にはホームページを立ち上げ、関連情報の発信と併せ、無償で使える素材やリンク集の公開に踏み切っている。

今回の動画制作のきっかけは、サイト運営を担うプロジェクトメンバーの一人である同志社女子大学薬学部助教の西村亜佐子氏から出された「コロナ禍で奮闘する薬剤師の姿を薬学生に知ってほしい」との願いだったという。

オンライン服薬指導の難しさなど伝える

動画は、「高温多湿な夏場にウイルスの勢いは収まる」との希望的観測に反し、クラスターが頻発する状況に危機感を募らせる薬局薬剤師らによって制作された。同グループのYouTubeチャンネル（https://www.youtube.com/channel/UCdWYF_MLMpaf0tNLOY9Ivlw/featured）ならびに動画ライブラリー（https://www.kyoto-sph-pharmacy.com/covid-movie）にアップされており、次の5本で構成されている。

①薬局におけるCOVID-19対策②オンライン服薬指導の難しさ③患者さんからの質問って？④と⑤「番外編」＝薬学生の頃のエピソードと薬剤師としてのやりがい――。

オンライン服薬指導に触れ、電話によるコミュニケーションの難しさがクローズアップされた。

「高齢者に初めて処方された薬かどうか確認しにくかった」「顔色や表情が見えないと不安」「薬の形や色の説明が伝わっているかどうか分からない」といった戸惑いの声が報告されている。

同グループは2019年4月、京都大学大学院医学研究科社会健康医学

京都大学大学院医学研究科特定講師・岡田浩氏

アカデミアと現場の連携で情報発信のモデルに

地域医療に積極的な関わりを持つ多くの薬局薬剤師が参加しているため、報告者の人選から、オンライン会議ツール「Zoom」による同時インタビューの設定までスムーズに進められた。

空き時間を利用して学べるよう各編とも10分前後にまとめられている他、字幕が付けられているので電車内など移動中に音声オフで視聴しても理解できる。

さらなるメリットとして保険薬局と接触する機会が少ない他の医療職に、薬剤師職能とその活用方法などを伝えられることが期待されている。

同グループには現在、計48人のメンバーが参加している。配布資料の作成や広報活動、ブログ、外国人対応、リンク集、海外の薬局向けCOVID-19ガイドラインの翻訳といった作業を分担してこなしている。

一連のプロジェクトをめぐり岡田氏は「WEBによって信頼できる情報の収集だけでなく、発信と共有が容易になっているにもかかわらず、薬局・薬剤師は十分に活用できていなかったのかもしれない」と分析。「たとえ小さなグループでも社会に必要とされる情報があれば、アカデミアと現場の医療者の連携で情報発信が可能になるというモデルになればいい」と評価している。

また今後、次なる感染症や災害への準備として、情報発信のノウハウを記録に残し薬局の臨床研究の成果と捉えて報告していく。

【問い合わせ先】事務局・角（電話075-753-4354／Eメール：kado.ayumi.7n@kyoto-u.ac.jp）

企画　防虫剤……4～5面